

活動報告

なつ げいじゅつさい ひろしま夏の芸術祭 びじゅつかん にほんがたいけんきょうしつ 美術館セミナー 日本画体験教室



先生から、岩絵具の作り方について説明がありました。



まずは、細かく砕いて！



岩絵具にニカワを混ぜる。いよいよ着彩。



上澄みと底の顔料を分けて、濃い緑と薄い緑を作ってみよう！



乾燥すると粉末状に、岩絵具のできあがり。

ひろしま夏の芸術祭美術館セミナー「日本画体験教室」は、一般の部も、講師は昨日に引き続き、日本画家・横山由美子先生(日本美術院院友)にお願いしました。

午前中は、日本画で使われる絵具「岩絵具」を作りに挑戦。天然の鉱石を粉末状にしたもので、発色の美しさが魅力です。

今回は、孔雀石という原石を使い、「緑青」という緑色の絵具を作ります。

まず、鉄乳鉢に原石を入れて、粗めに砕きます。これを乳鉢に移し、細かい粒子になるまで擦ります。サラサラの粒子になると、少し水を加え、微粉碎します。微粉碎が終わると絵皿に移して少量の水を加え、全ての粒子が沈殿する前に上澄みを別の容器にとります。こうすることで、少し粗めの粒子の絵の具と細かい粒子の絵の具の2種類ができます。これを乾燥させると岩絵具の完成です。

次に、水谷愛子「たけのこ」を模写します。自分の気に入った部分を色紙にデッサンし、自分で作った岩絵具を塗っていきます。岩絵具を着彩する際は、動物の皮や骨髓から煮出した膠を水でふやかし接着剤として練り合わせてから使います。好みの濃度になるように水を加え、調整します。

岩絵具は、使える状態に準備するだけでも大変です。それでも、天然の鉱石から作った岩絵具は、何にもかえがたい美しさをたたえています。日本画について、理解を深めていただけたなら幸いです。

今回制作した作品は、特別展「広島 日本画の系譜」で展示されます。皆様、お誘い合わせの上、ぜひご鑑賞ください。

[* 教育普及のページに戻る *](#)

Copyright©Kure Municipal Museum of Art all rights reserved.